

▶地震の揺れと想定される被害

震度	揺れの感じ方・想定される被害
4	ほとんどの人が驚く。電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる。
5弱	棚にある食器類や本が落ちる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5強	物につかまらなると歩くことが難しい。棚にある食器類や本など、落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。
6弱	立っていることが困難。固定していない家具の大半が倒れる。ドアが開かなくなることがある。 耐震性の低い木造建物は、建物が傾いたりすることがある。
6強	這わないと動くことができない。 耐震性の低い木造住宅は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 大きな地割れ、山林の崩壊の発生。
7	耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。



本町では、前線や台風による豪雨災害や風害のほかに、地震による被害も心配されることから、町の地域防災計画では、最も脅威となる災害として「最大震度6強の直下型の地震」を想定しています。今月号では「地震」をテーマに、住民の皆さまに備えてもらいたい防災知識について紹介していきます。

町住民生活課 (☎852・5112)

写真:平成19年7月16日の新潟県中越沖地震により全壊した建物。(出典:一般社団法人消防防災科学センター)

地震への備え② 家具の固定
大地震等の発生時は、家具類が転倒し、部屋中に散乱してしまいます。

町では、耐震診断支援事業を受け付けており、実質負担1万円以内で住宅の耐震性能の診断が可能となります。その際、耐震改修工事が必要となった場合は、補助金の活用が可能となる場合があります。耐震診断等については、町建設課(☎090-2525252)までご相談ください。また、基準に適合する耐震改修を実施した場合は、固定資産税が減額となる制度もありますので、事前に工務店や町税務課(☎852・5144)までご相談ください。

地震への備え① 住宅の耐震化
地震への備えとして重要なものの一つが、建物の耐震化です。大きな地震が発生した時、建物の倒壊や損壊により命を落としたり、建物内に閉じ込められるといったケースが多くなります。平成7年1月17日の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の建物被害状況から、特に昭和56年以前のいわゆる「旧耐震基準」で建てられた建築物については、耐震診断を実施し、その結果必要に応じて耐震改修工事が必要です。

地震への備え③ ブロック塀の耐震化
耐震性のないブロック塀や門柱などは、地震で倒れる可能性があります。平成30年6月18日の大阪北部地震では、小学校のブロック塀が倒れ、登校中の児童が亡くなる事故が発生しています。

地震で家具が倒れないよう、しっかりと固定しましょう。



過去の大地震発生時には、ピアノが部屋の中で動き回り、テレビや電子レンジが宙を舞うといった平常時には想像し難いことが起きています。また、重い家具の下敷きになり、胸部などが圧迫されることで窒息死する恐れがあるため、特に注意が必要です。命を守り、けがをしないためにも、し字金具や支え棒などで家具を固定するなど、家具の転倒、落下を防ぐ対策をとりましょう。

■天長地震モデルによる本町の地震被害想定

●マグニチュード	7.2
●最大震度	6強
●建物被害予測	全壊 2,069棟 半壊 2,089棟
●火災被害予測	炎上出火件数 4件 消失棟数 174件
●人的被害予測	死者 107人 負傷者 514人
●避難者数	最大 4,466人
●必要となる応急仮設住宅	1,038棟
●上水道復旧日数	20日
●下水道復旧日数	26日
●電力復旧日数	7日
●通信復旧日数	7日

本町で最も脅威となる「天長地震モデル」による災害
県では、27パターンの地震モデルを想定しており、そのうち本町で最も被害が大きくなるのが予想される地震災害は「天長地震モデル」によるものです。これは、西暦830年(平安時代)に実際に発生したと言われている直下型の地震で、同じ規模の地震が現代に発生した場合に、左の表に示したような被害が予想されます。

震度の程度と強さ
地震の震度には0から7までの計10の震度階級があります。本町で記録のある最大震度は、「日本海中部地震(昭和58年5月26日)」の震度5で、当時、住家半壊5棟、非住家半壊42棟、道路決壊15か所などの被害がありました。気象庁の震度階級の解説によれば、次ページ上部の表のようになっています。耐震性の低い建物の倒壊により命に関わる被害が心配されま